

伊勢市のシティプロモーションを考えるワークショップ(平成28年度 第1回) 結果概要

<日 時>平成28年11月16日(水) 18時30分~20時30分

<場 所>伊勢河崎商人館 1階 角吾座

<参加者>8名

<テーマ>

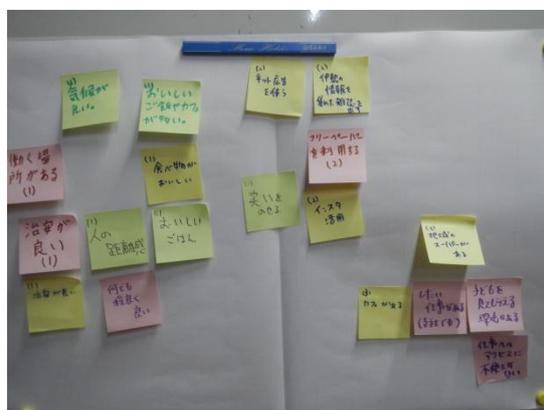
Iターン(移住・転入・進学)・Uターンを経験した人の目線で、「(1)伊勢市での生活に有用な情報、(2)その情報を得る手段、(3)Iターン・Uターンを呼び込む情報発信」を考える。また、今年度版の『伊勢市 移住・Uターン応援ガイド』を材料に、その来年度版の内容・デザインを考える。

<ファシリテーター>

皇學館大学文学部准教授 岡野裕行氏

第1部概要

2つのグループに分かれて、(1)伊勢市での生活に有用な情報、(2)その情報を得る手段、(3)Iターン・Uターンを呼び込む情報発信 について意見交換・発表を行った。



(主な発表内容)

- ◇ 就職のことを考える時期になり、四日市や松阪と比べて伊勢は就職情報が少ないことに気付いた。夜間の路線バスの本数が少なく、学生にとっては不便と感じる。
- ◇ 伊勢志摩地域の良いところを広めたいという有志が運営している「15emit (イチゴエミット)」という情報サイトがあり、毎日更新されている。もっと多くの人がこのサイトを知って、いろいろな情報を得られるしくみができればと思う。
- ◇ 伊勢には祭りがたくさんあるのが良い。また、食べるお店もたくさんあるが、雑誌やインターネットで同じお店ばかり取り上げられている。もっと情報の多様性があれば、二度、三度と伊勢を訪れてみたいと思ってもらえると思う。公共交通機関については、伊勢神宮以外の場所に行きたいときに、行くすべがあまりないと感じる。
- ◇ 伊勢で長い間生活していると環境に慣れて、不満に思うところがあまりない。自分が住んでいるまちに目を向けられるしくみ、情報発信に住民が参加できる流れを、少しずつ作っていく必要があると思う。仕事については、志摩には自分で仕事を作って生活していく考え方があるので、伊勢でもそんな考え方を発信していくと良いと思う。
- ◇ 伊勢での生活に不満はない。情報発信の手段としてインスタグラム、ツイッター、フェイスブックなどの SNS を使用しても、尖った情報でなければ人の目には触れない。「笑い」があれば情報が尖る。また、ローカルな内容やニッチな内容、例えば三重県にしかないスーパーのぎゅーとら、レトロなパッケージの商品などの情報で、伊勢に興味を持ってもらえないか。市役所が主体でやるか、民間が主体でやるか。
- ◇ 伊勢での生活に特に不満はない。学生の方が感じる公共交通機関の不便さは、車を所有するとあまり気にならなくなると思う。ごはんを食べるお店を探すときに見る『Simple』のような情報源が、『イセラ』のようなフリーペーパーも含めて、もっとあれば良い。市役所が手助けするしくみがあれば良いと思う。
- ◇ 学生にとって、「食べ物が美味しいこと」、「治安が良いこと」は非常に大切。情報発信の手段としての SNS について、フェイスブックは若い世代はあまり使用しないし、ツイッターは炎上することがあるが、インスタグラムは使いやすい。尖った情報として、例えば、カフェだけを特集した雑誌があっても面白い。「伊勢に住もう」のような広告をスマホゲームやインターネットで出せば、若者の目に留まりやすいかもしれない。
- ◇ 学生にとって、大学や駅の周辺の美味しいごはん屋さんやカフェの情報は役立つ。その情報をインスタグラムやフリーペーパーを活用して発信できないか。インターネットで発信する情報は、ホームページ検索で見つけやすいようにすることが大切。

(ファシリテーターまとめ)

- ◇ 学生と社会人の視点の違いは面白い。不便さを感じることはまちづくりのヒントになる。情報発信の手段としてはインターネットや SNS があるが、伝えたい情報をたくさん情報の中に埋もれさせない、そして人の目に留まるようにするための工夫が必要になる。市役所、民間、学生としてできること、得意なことがそれぞれあるので、協力関係の構築が大切になる。

第2部概要

今年度作成した『伊勢市 移住・Uターン応援ガイド』を材料に、来年度版の内容やデザインの検討に向けた意見交換・発表を行った。



(主な発表内容)

- ◇ 表紙のインパクトを高めるため、写真の枚数を減らして大きく配置する。
- ◇ 表紙の「移住・Uターン応援ガイド」の文字を大きくして目立つようにする。
- ◇ 表紙に学生、お年寄り、社会人の生き活きとした写真を載せる。
- ◇ カフェや古本屋に行くときの写真など、普段の生活の様子を伝える写真を入れる。
- ◇ 全体的にお役所感を薄めるため、写真、デザイン、文字フォントを工夫する。
- ◇ 詰め込みすぎの印象を受けるので、情報を減らす。
- ◇ 防災の情報は住む場所を決めるときに重要なので、防災の情報を増やす。
- ◇ 津波を怖いと感じる人は多いと思うので、防災の情報を充実させるか、もっと目立つ位置に配置する。
- ◇ 新しい土地で生活するには仕事が必要なので、仕事に関する情報を充実させる。実際に支援を受けた人の話を載せる。
- ◇ 高齢者、障がい者の支援に力を入れていることを伝える。
- ◇ 移住・Uターン支援に対する本気度が伝わる市職員のメッセージを入れる。
- ◇ 「こういうサポートがしたい」という市職員のメッセージを入れる。
- ◇ インターネットサイトの写真を入れて、そこに誘導するしくみを作る。
- ◇ 他のまちとの違いを出すためには、伊勢らしさを残すことも大切。
- ◇ 地元の人がよく訪れる場所を特集したローカルの観光パンフレットのような内容も、伊勢らしさが出て面白いのでは。
- ◇ 伊勢の中にいる人の発想だけに頼らず、例えば東京の人に作成をお願いするなど、完全に外からの視点で作ることも検討してみてもは。

アンケートまとめ

Q. 今日のワークショップで一番印象に残ったことを教えてください。

- ◆ パンフレットについて、情報量が多すぎるという意見があり、驚いた。個人的には、もっと情報が必要だと思った。
- ◆ 伊勢市は移住とUターンに力を入れていると感じた。
- ◆ 社会人と学生で話して、全然違う視点があって面白かった。
- ◆ 若い世代に発信したければ、女性に手に取ってもらえるようなもの、キャッチーなものが必要であること。
- ◆ コミュニティ、つながりが大切だと思う。それをどのように広げていくか。
- ◆ 住むまちとして、伊勢市の魅力、強みが不十分だと感じた。住んでいる人たちが「特にここが良い」と思う点が少ない。
- ◆ 県内や県外、社会人、学生と観点が違くと、利点などが逆になっていることを肌で感じる事ができた。都会から伊勢に来る魅力がある！！と再発見できた。
- ◆ Iターン、Uターンで随分と考えが違おうと思った。学生の意見には柔軟性がある。

Q. 今日のワークショップに参加して感じたことを教えてください。

- ◆ 学生と社会人とは、考え方が多少異なることを改めて実感した。情報を発信する際には年代別に取り組むべきだと思った。
- ◆ 観光地の印象が強い伊勢の生活感を出すのは難しいと思った。
- ◆ 伊勢市に住み続けること、移住することをテーマに考えたことがなかったので楽しかった。伊勢に住んで3年近くなり、改めて伊勢に住むとき何を考えたか、住んでいて良いと思うところを考えてみるのは良い経験になった。また、様々な方とお話ができ、学ぶことが多かった。機会があればこのようなワークショップにまた参加したい。
- ◆ 伊勢について考えることができるのは楽しく、刺激になった。普段、こうであれば良いのにと考えていることを話し合える機会があるのはとても良いと思う。違う世代の方の話をじっくり聞けるのも良かった。
- ◆ このワークショップのような場が継続してあることが貴重だと思う。
- ◆ 市が移住、Uターンの応援を進めるにあたり、具体的に何を応援していきたいのかが見えない。
- ◆ 今まで、あまり「伊勢市」について考える機会がなく生活してきた。しかし、改めてスポットを当ててみると、知らないことだらけだと感じた。その情報をキャッチできるように視野を広げると同時に、情報を広く発信していくべきだと考えた。まずは住んでいる私たちがたくさん情報を共有して、外部の方へ発信していくべきだと感じた。また、このワークショップに参加したい。
- ◆ 伊勢について熱く考えている方が多くいることが嬉しかった。もっとワークショップの参加人数が増えると、意見が出て楽しくなるのではと感じた。

以上